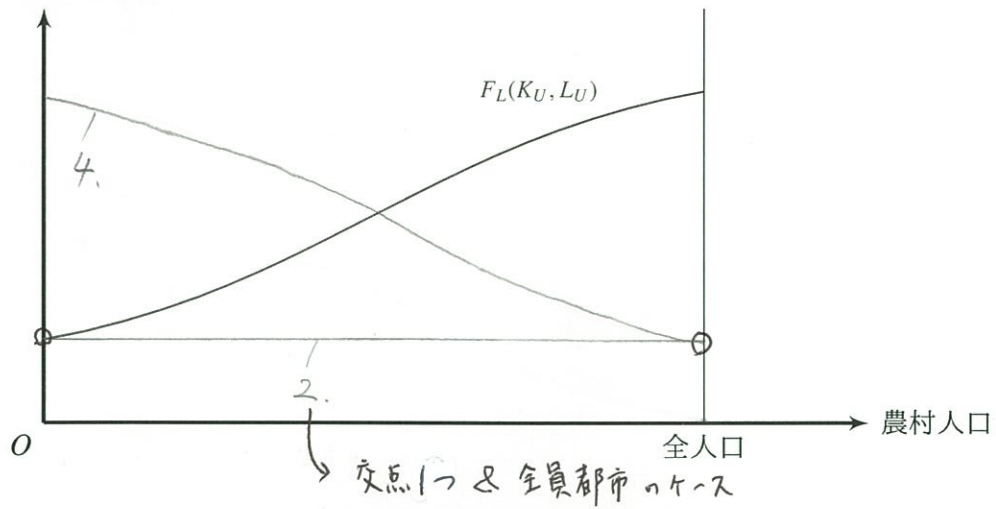


労働の限界生産性



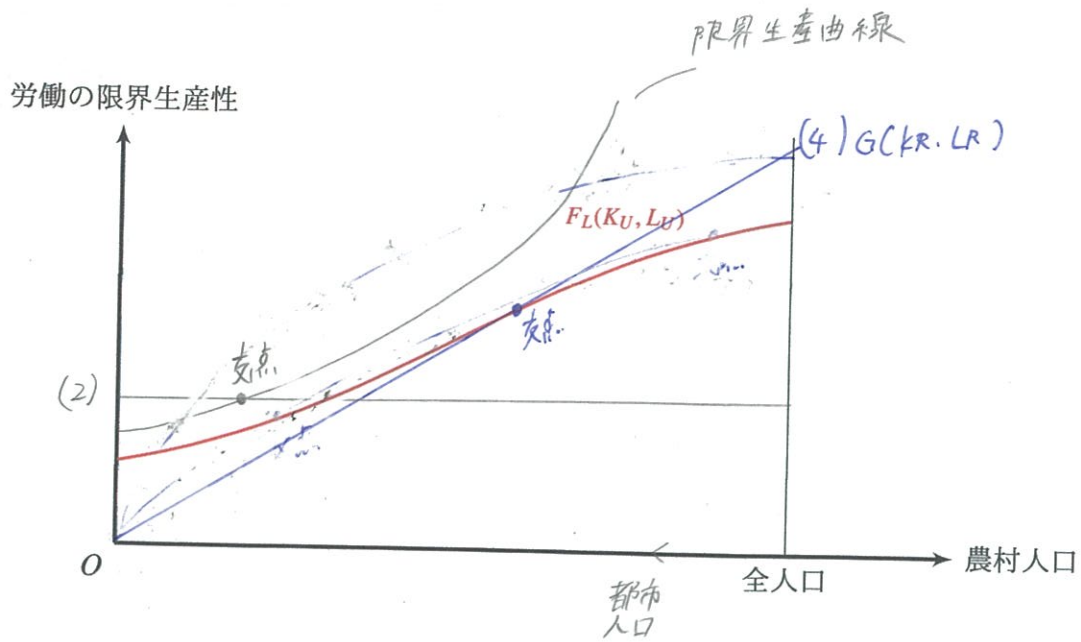
3. 都市部で働く農村人口を決める

4. 都市部で働く(農村)人口と、その賃金を決める

5. $F_L(K_U, L_U)$ と 4. の傾きが2倍になる → この図のケースでは
傾きは同じ×上でゆるやかに下がるが、
一般的には急になる・変わらないこともある。

6. $F_L(K_U, L_U)$ が全体的に上にシフトし、交点が左にずれる

11/22



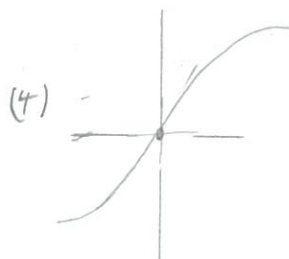
資本 K

労働 L

農村	$K_R + L_R$	\rightarrow	農業生産 G	$G(K_R, L_R)$
都市	$K_U + L_U$	\rightarrow	工業生産 F	$F(K_U, L_U)$

(2) 図に

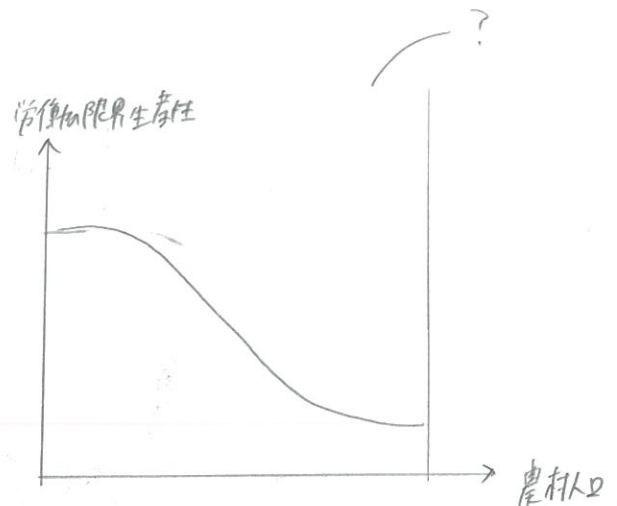
(3) 限界生産曲線と生産水準賃金の交点は ^{生産にかかる} 費用の最小の値を決める。
利潤を最大化するのに最も良い



交点が何を決めるのか?

(5) 平均的に労働の限界生産性が上がる。
 $G(K_R, L_R)$ の曲線が右にずれる

(6) K が増えると工業生産が上がる。
労働の限界生産性は下がる?



都市：工業生産 資本 K_u 労働 L_u

農村：農業生産 資本 K_r 労働 L_r

2.

3. 都市部の労働の限界生産性曲線と生存水準賃金の交点の意味

交点まではどれだけ労働者が増えても賃金は変わらず、農業部門での余剰の労働力を吸収する形で労働者を増やしていく。しかし交点以降は農業部門で生存水準賃金を確保している人々から工業部門での労働者を確保する必要があるため、工業部門では賃金の引き上げなど何らかの待遇を変える必要が出てくる。

starting from high

ok wrong

4. 工業、農業それぞれの限界生産性の交点の意味

0 点では = もともと農村の農業の賃金の方が低く、都市部の工業の賃金の方が高い。

そのため農村から都市に労働者が移動する。これにより農業の限界生産性が下がり、工業の限界生産性が上がる。限界生産性と賃金は関連しているため限界生産性が上がるほど賃金も高くなる。

つまり、この交点は限界生産性の変化により賃金の格差が解消されるため、農村から都市への移動が終わることを意味する。

5. 全人口が倍になるが、農地の拡大や、工業生産技術の革新は起こらないと捉える。good. 生存水準の賃金と雇用が交わる点で分かる工業部門、農業部門の雇用数を全人口から引いたもともと農業部門での過剰労働力数が大きくなる。

つまり、将来農業部門から工業部門に移動する労働者の数が増えることが予想できる。

6. 資本蓄積が進み、工業生産に使われる資本が増える。

使える資本が増えるという事は、工業生産のための機械などに投資できるという事であり、限界生産性の逓減が始まるまでの期間が長くなる。

ok

労働の限界生産性

